

1-35 基幹作物の生産を支える家畜ふんを原料とした完熟堆肥 (肝付町高山堆肥センター)

○ 肝付町高山堆肥センターでは、畜産農家から無料で家畜ふんを受け入れ、完熟堆肥に調整し、低価格で地域の耕種農家に供給。

■ 国内資源の種類 ■ 肥料の種類・肥料名称 ■ 取組の経緯・内容・成果（見込み）

- ・牛ふん
- ・豚ふん
- ・種類：特殊肥料
- ・肥料名：有機ふんばれ（牛ふん完熟堆肥：15kg袋、バラ）、（牛・豚ふん混合堆肥：バラ）

■ 作物 ■ 主成分の含有量（%）、特徴等

- ・野菜
- ・果樹
- ・水稻
- ・花木等

	N	P	K	C/N比	水分
牛堆肥	1.01	1.45	2.27	15.6	38.1
混合堆肥	1.47	3.55	2.66	11.2	41.4

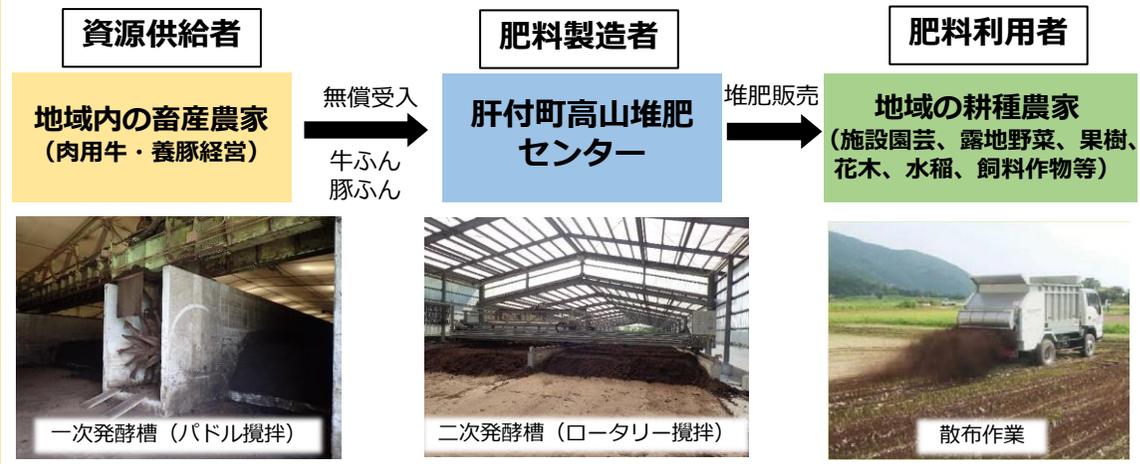
- ・あらゆる作物に安心して使用できる良質な完熟堆肥
- ・微生物を増殖させ、土壌の団粒化を促進し、保水性、通気性を高め、土壌を改善

取組の経緯
 ・肝付町の基幹産業は農業であり、中でも畜産業は産出額の約7割を占めている。主に肉用牛経営が盛んであり、高齢化や後継者不足で農家戸数は減少傾向だが、繁殖及び肥育牛の飼養頭数は増加している。当堆肥センターでは、労働力不足を補うため、家畜ふんの回収や堆肥の圃場散布等を行い、経営継続の支援を行っている。また、飼料や肥料等の生産資材の価格高騰が続く厳しい状況にあるため、堆肥を活用した資源循環型農業を目指している。

取組の内容
 ・利益を目的とした堆肥の生産・販売は行っていない。そのため、畜産農家からは無料で家畜ふんを受け入れ、低価格で耕種農家等に堆肥を販売している。

成果（見込み）
 ・成分分析を毎年行い、バランスの取れた良質な完熟堆肥として、利用者に好評を得ている。生産された堆肥の利用によって健全な土づくりや土壌改良が行われ、基幹作物（きゅうり、ピーマン等）の生産振興に繋がっている。

■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■ 今後の課題・取組

- ・堆肥を活用した有機農業の推進を今後図っていきたい。
- ・作業効率を向上させるためには、堆肥のペレット化が重要と考える。ペレット化によって需要も高まり、販路拡大にも繋がることが期待されるため、今後の検討課題である。
- ・地域内の耕種農家も減少していることから、地域外への堆肥の販路拡大も検討しながら、使う側の利用促進を図る。

